

地域社会に希望と夢を描く 〈地域おこし協力隊 活動報告〉



地域おこし協力隊 筆甫地区 玉手 孝行
2013年3月25日(月)

Name: 玉手 孝行(男)
1980年生まれ 32歳



(夢)

- ・田舎の課題を解決しながら、新しい価値を創出し、素敵な未来をつくる社会起業家になること
- ・子どもが将来に夢と希望をもてるモデル的な存在のカッコイイ生き方を実践する大人になること

(志望の動機)

ひとつのケガが原因で人生が崩壊してしまう体験をした。それ以前までは仕事は収入を得るための作業で、仕事と人生をリンクさせてのビジョンはなかった。

徹底的な自己啓発に励み、自分のアイデンティティを模索した結果、見つけた答えのひとつが「人の役に立ち、人とのつながりを大切にして、自分らしく楽しく生きること」だった。

人生を自己責任で生きれる人間力の習得と環境整備を実行すると決意した。地域おこし協力隊の活動は、夢を実現する修行と人生を素敵に生きる経験になると判断し志望した。

活動地域 丸森町筆甫(ひっぽ)

- ・宮城県と福島県の県境の地域
- ・人口＝約740人
- ・高齢化率＝約41%
- ・基幹産業＝明確な産業はナシ
(酪農、農業、炭焼き、林業)

<特徴>

少子高齢化が進行する中山間地域。主幹となる産業はないが、自営で生活している住民は数件有。豊かな自然環境と人柄の良さが要因で移住者が多い地域性が特徴。小学校の全校生徒16人中、10人が移住者の子供。

しかし、放射能問題で向こう20年後訪れるような未来が、直面筆の問題として顕著化している。



三百年のその昔、
政宗公名づけたる
筆のはじめも名も高し
これ我郷の誉れなり

筆甫地区 地域おこし協力隊の活動内容

平成23年度
(8～3月、8ヶ月間)

平成24年度

地域依頼業務	自主活動
歴史調査・収集・ 資料まとめ、冊子、 観光マップ作成	廃校体育館利用の スポーツ・若者交 流クラブ
特産品販売、 販路拡大	農業・炭焼き体験
環境保全活動 (竹林整備事業)	地域資源活用活動
地域行事運営支援	空き家片づけ作業
ブログ作成による 情報発信	

地域依頼業務	自主活動
耕作放棄地 利用推進事業 (ひまわり事業)	地域資源活用方 法・確立活動
地域の歴史調査 小冊子作成 (筆甫村伝承マップ)	福島県伊達市との 交流事業
地域行事運営支援	丸森町内人的ネッ トワーク構築活動
	地域おこし協力隊 認知拡大活動
	地域組織運営支援
	ブログ・SNSによる 情報発信

耕作放棄地利用推進事業 (ひっぽ ☺ ひまわりプロジェクト)

地域内に増え続けいている耕作
放棄地は「**地域力**」衰退の象徴

放棄された田畑。手を加え行動
を起こすことで変化を生む



意図したミッションは行動だけが変化を生む
という事実を、目視成果として認識させること

耕作放棄地利用推進事業 (ひっぽ ☺ ひまわりプロジェクト)

耕作放棄地は地域にどんな影響を与えているのかを、実践活動で把握

景観悪化、獣害拡大、排水問題。
農作業は地域で繋がっていること



活動の成果が目に見えることで、
住民の行動に発展することを意識して活動

課題：人を巻き込み、 活動が展開・発展していく仕組みを構築すること

中山間地域直接支払制度利用
集落協定会員と合同作業

ひまわり子実の収穫作業



**地域づくりへの意識を“他人事”から、
“自分事”へ意識変革をもたらすのは安易ではない**

今年度の成果を次年につなげ、 発展的な活動にしていくために

ヒマワリはとってもきれいに咲いた。景観作物としては意味を成した

そして、搾油。さて、地域にとってどんな行動が未来創造につながるか



「人間の行動を変えるには、楽しい！と思わせることが大事」
そんな仕掛けをどんどんつくって、人を巻き込んでいくことが必要だと感じています。

地域資源の発掘

ないものねだりから、あるもの探し、そしてあるもの磨き

里山を荒廃させている放置竹林竹
を資源活用させるプロジェクト

資源化させた竹をイベントで
人目につかせる！



地区住民と協同作業で“百姓(豊年者)”の知恵や技術の価値を確認。
誰でも得意を活かして人材として活躍できる可能性を実感。
どう仕組みを創りあげるかが課題。

地域資源の発掘 プロトタイプ実践



ひっぽ筆まつりは
地域の未来を創造する為に
開始した素敵な取組だった

福島県伊達市地域おこし支援員
と協同プロジェクトを実行！！



月日の経過と共に様々な原因
から、ビジョンとミッションが欠
如していた状態になっていた

単地域開催では疲弊した物事も
協同することで建設的な未来創造を
図る可能性を示す



「見せ方」と「仕掛け」を考えた ストーリーを描く

荒廃してしまい意味をなさなくなってしまう筆神社の看板

若者(学生)を地域社会活動に巻き込み、活躍できる機会を創出する



地域の活性化とは、そこに暮らす人がいかに生き生きと暮らしていくかではないか？不平不満と口にする前にアイデアと実行力が大事。未来へとつなげていく行動を！

地元を大切にすることを伝えていくために

地域資源の掘り起こしを実践し、

地元への愛着と土着民の尊厳と誇りの見直しを図る

徹底的なフィールドワークで聞き取り調査を実施。プロセスで新たな発見や展開が生まれた。当たり前と思っているモノゴトも地域の宝ということの視点と意識を創出させた。

取組が評価され地元紙に記事が掲載され、地域住民の誇りと尊厳創出に貢献できた



部外者である地域おこし協力隊の役割

- 「よそ者」という立場を活かし、地域の「刺激」と「火付け役」になる
- 自分達の住む地域について考える「きっかけ」を創りだす⇒地域の未来を本音で語れる環境作り
- 地域を巻き込み、バラバラの「問題意識」や「潜在的やる気」を住民主体の「実感の伴う」活動にする
⇒「正解」がない中で「納得解」を創出する協力
- 筆甫だからこそその「資源」と「強み」を再発見し、オンリーワンの「魅力」として発信する
⇒地域の誇りや尊厳を認識し郷土愛を育むための協力

※住民一人ひとりの潜在的ニーズ・思い・ビジョンを
具体的な「カタチ」にする協力

地域おこし協力隊の社会的生産性向上の条件

- 具体的な「まちづくり」「地域おこし」を考えているのか、受入側は明確なビジョンを持ち、隊員本人も明確なビジョンとミッションを持つ
- 地域の「現状」と「理想像」との間に在る課題を改善していくため、内部者・外部者各々に何を求めるのか、達成する役割と位置づけを明確にする。

実行しながら変化していくことが大前提とはいえ、
本人が来た段階でしっかりとやるべき方向を示す必要性がある。

⇒「地域」「行政」「協力隊」

三者の思いがシンクロしてこそ、制度の威力が発揮される

今後の目標

山形県 最上町 地域おこし協力隊

(長さを測る物差しでは、重さは図れない)

- ・高度成長時代のビジネスモデルにいつまでもしがみつかず地方らしい資源に目を向けて独創的な産業文化を開拓する。
- ・人間的な生き方、自然に即した暮らしこそ、地方ならではの魅力だという認識を高め、誇りを持って暮らす。

(協力隊のミッション・フォーカス)

- ①活動期間終了後、本人が継続して地域に残り、自立的定住を果たすこと
- ②活動期間後も「仕組み」が残ることを協力隊と地域が意識できる活動を行うこと

- ☆社会の課題を解決すると同時に、新しい価値と仕組みを創出する“社会起業家”になること。
- ☆地域社会に夢と希望を持てる人、自分の手で未来を素敵に変えられる人を育成する人材になること。
- ☆笑顔で楽しく過ごせる仲間と人生を豊かにいきること。

Q、未来は もっと素敵だと思いますか？

**Q、自分の手で もっと
未来を素敵にできると思いますか？**

御清聴

ごーもないん